

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	玉野市立荘内中学校	実践者名	谷本 知佳
教科等	外国語（英語）	学年	第1学年
		授業活用段階（岡山県版）	Stage 3
育成したい資質・能力	物の持ち主を見つけるために、相手を意識しながらペアでやり取りをすることができる。		
単元・内容等	New Crown 1 GET Plus 4		
児童生徒の実態（端末活用頻度等）	授業、学級活動、委員会など様々な場面で活用している。毎日持ち帰りデジタルドリルを使った先行学習や課題の提出を行っている。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
【学習の概要】 疑問詞 whose の活用場面を理解し、「whose」を用いてペアでやり取りができる言語活動を行った。 【使用アプリ】 ・ Kahoot! ・ ロイロ・ノート 【学習の流れ】 （1）Kahoot!を用いて所有格の復習を行う。 （2）whose の働きを知る。 （3）whose のドリル練習をする。 （4）ロイロ・ノートを用いてペアでピクチャーカードの場面を読み取りペアでやり取りをする。 ①ロイロ・ノートに配布された4種類のピクチャーカードから場面を選ぶ。 ②ペアで場面に適した会話をを行い、ロイロ・ノートで録音する。 （5）録音した会話をロイロ・ノートで提出する。			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
・ Kahoot!を用いるとゲーム感覚で復習することができたので英語が苦手な子も参加しやすい雰囲気であった。しかし、復習よりもゲームに意識が向きすぎてしまう部分が課題である。 ・ 会話活動を録音して提出するので、会話テストを1時間の授業内で終わることができた。		・ 英語に苦手意識を持っている子も whose を用いてペアで会話をしていた。 ・ ピクチャーカードを用いてことで、場面を想像し、ターゲット文の whose を用いた文以外にも自分たちで会話を続けているペアもあった。	

